

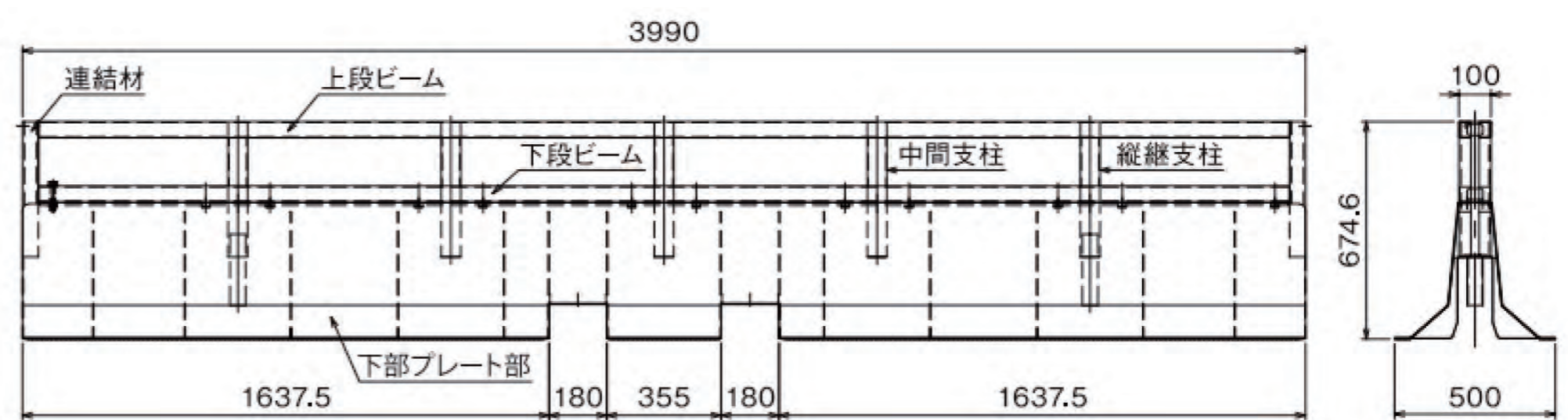
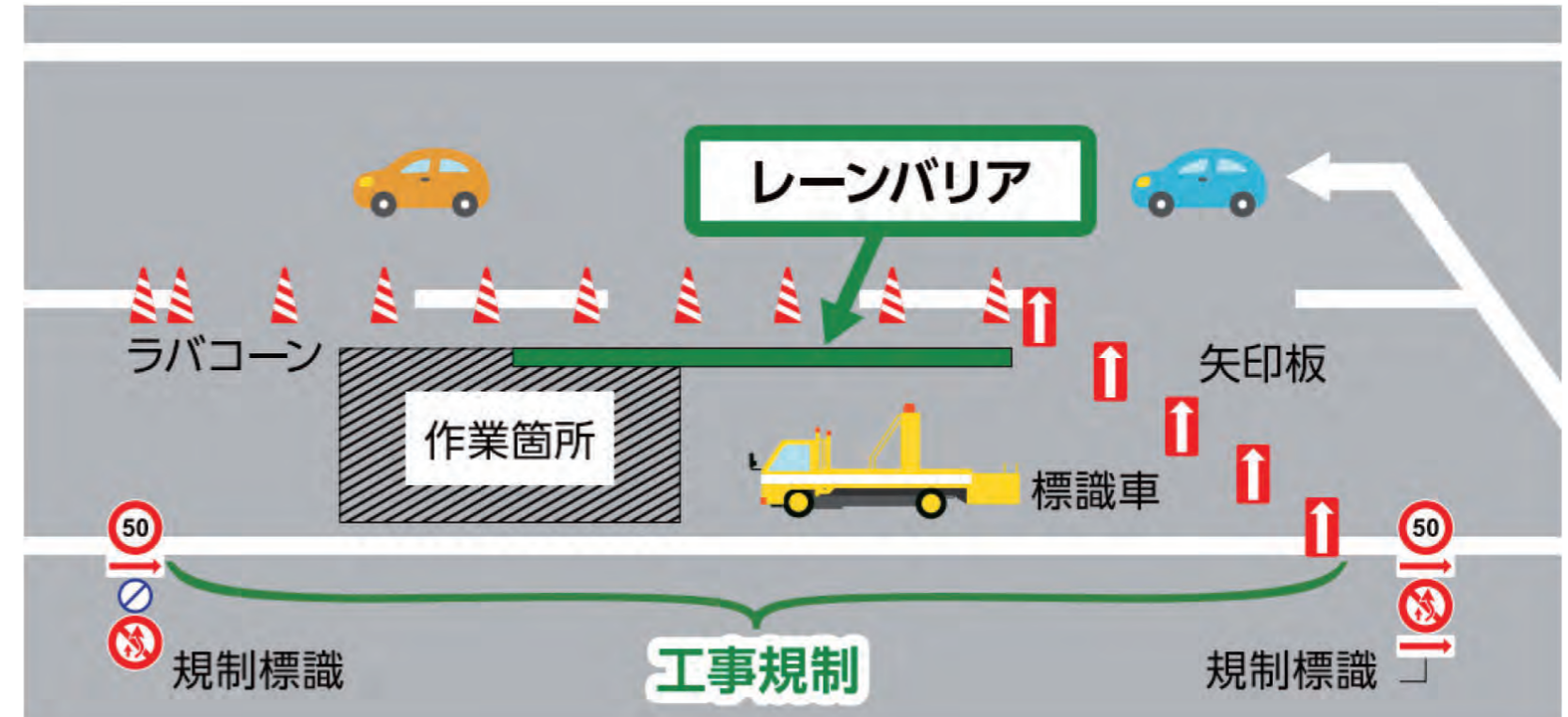
レーンバリア

開発経緯と目的

工事規制箇所において、規制内に一般車両が誤って進入する事故が多発しており、いかに作業者の安全性を確保するかが課題でした。

車両進入抑止機能の無いラバーコーン等による視覚的な対策が主流でしたが、ラバーコーン等に替わる新たな交通規制材となる仮設防護柵「レーンバリア」を東日本高速道路株式会社と鋼製防護柵協会で共同開発しました。

ドライバーへの視線誘導効果、車両進入抑止効果、作業者の安心感向上など、安全性向上が期待できます。



形状 《約170kg/ユニット》

特長と設置・撤去

基礎・アンカー設置等の付帯工事は不要であり、組立はレーンバリアを路面に置き、接続材を落とし込むだけです。<設置作業、撤去作業ともに要する時間は約30分です。>

1 現地に置くだけ簡単施工



設置状況

従来の基礎・アンカー設置等の付帯工事が不要です。

2 ワンタッチ連結構造



左右の連結は、接続材を落とし込むだけ。現地取付ボルトレスで設置・撤去がスピーディーです。

3 4トンユニック車 1 台に積載可能



積載状況

一連 32m 分を 4 トンユニック車 1 台に積載可能です。
※4m/基(約 170kg) × 8 基(4 基 × 2 段積み) = 32m

4 現地取り回しが良好



構造の下部中央に切り欠き部を採用。ハンドリフトで移動が可能です。

性能確認

設定した条件による実車衝突実験により、車両誘導性を確認しています。

※設置延長L=32m (4m/基×8 基)

⇒車両の突破が無いことを確認

⇒水平移動量0.553m で衝突車両を安全に誘導

